

校 園 名：福岡教育大学附属小倉小学校

所在地：〒802-0023 北九州市小倉北区下富野3丁目13-1 電話番号：093-531-1434

記載日：2016年5月19日

記載者：成重純一

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

- 当然のことですが、児童を中心にした教育を明確に打ち出しています。
- 誘導論（間接的な刺激を通して児童をねらいや価値に誘い導く教育理論）を根底に据えています。そのため、通常、「学習指導案」と呼ばれる授業計画案のことを、本校では、「学習誘導案」と呼び、文書上に明記しています。
- 児童の問いや発想を大切にした教育活動を重視するため、公開授業等においては、児童が教師の教材解釈や授業展開の計画を乗り越える、価値ある発言を行うことがよくあります。
- 授業以外の場面でも、児童がやりたいことや目指す方向を決めて取り組む活動を重視して教育活動を進めています。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- 追跡調査等を一切行っていないので正確な情報は把握できません。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- 本校では、毎年、年1回、本校勤務経験者の会があります。その会で配布する冊子に名簿を掲載するため、事前に往復はがきで、勤務先及び役職を確認しています。
- 平成28年3月31日現在の状況は、次のとおりです。

本校経験者のうち、現職者153名の内訳

A 学校関係（125名）

B 行政関係（28名）

校 長：29名

教育事務所 : 1名

教 頭：17名

主幹指導主事・課長 : 4名

主幹教諭：27名

主任指導主事・指導主事・係長 : 9名

指導教諭： 4名

指導主事（充て職） : 14名

教 諭：42名

養護教諭： 5名

准 教 授： 1名

- このほか、退職した本校経験者の数名は、政令市の教育次長や市町村の教育長に就きました。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

本校では、北九州市及び関係教育事務所管内の公立校の研究や教育活動の改善に資するよう、次のような取り組みを行っています。

1 研究発表会

毎年2月に開催しています。本年度は、2月9日（木）、10日（金）の二日間の開催です。研究は、1年生の児童が卒業するまで継続しないと成果の検証はできないのではないかという考えに立って学校全体の研究を6年次計画で推進しています。本年度は、第4年次に入ります。一層の充実を図ってまいります。

毎年1000名を超える参加があります。



2 公開授業研究会

5月に「春季授業研究会」、6月に「授業づくり公開研究会」、11月に「秋季授業研究会」を開催しています。

(1) 春季授業研究会

- ・授業の公開と本校教員による協議会の公開と講師の講話をプログラムにしています。授業を公開し、参加者による協議会を行う研究会は多いですが、本校教員による協議会を参加者がフロアから参観する研究会は少ないと思います。

(2) 授業づくり公開研究会

- ・地域の各教科等の研究サークルと連携して行う研究会です。本校教員だけでなく、各教科等の研究サークルから推薦された公立校の教員も授業者となります。毎年1000名近くの参加があります。若年教員の人材発掘及び人材育成の場となっています。



(3) 秋季授業研究会

- ・本校教員の指導力向上をねらいとして、本校教員のOB・OG全員を参加者として全教科・領域の授業研究会を行います。全教科・領域の分科会を同時進行で行い、講師の講話を聴くプログラムです。この研究会の成果が1の研究発表会や3の出張相談に生きてきます。

3 出張相談

公立校からの授業改善の要望に応える取り組みです。公開授業の協議会における指導助言や学習指導案作成における指導助言を行っています。講師となった本校教員の一人一人が、理論だけでなく自分の実践を基に失敗談を交えながら話をするので「具体的で分かりやすい」と高い評価をいただいています。

4 小倉祇園太鼓競演大会への出場

本校は、他附属と同様に、いわゆる校区をもっていません。小倉を中心とする北九州市全体を我が町としてとらえ、郷土愛をもてるように、総合的な学習の時間を「こくら」と名付けて取り組んでいます。

「こくら」の時間に第5学年の児童たちが取り組んでいるのが、単元「わたしたちの小倉祇園太鼓」です。小倉祇園太鼓の歴史とともに、それを受け継ぎ守ろうとする人々の思いに触れることを通して、自らも伝統を継承・発展させていこうとする意欲



や態度を育てる学習です。小倉祇園太鼓保存会の方に指導していただき、児童たちが感じ取った「わたしたちの小倉祇園太鼓」を競演大会で表現しています。競演大会では、本校の第5学年チームは、一般の部に出場し、成人のチームと競っていますが、平成15年度に初優勝して以来、これまでに合計5回優勝しています。

5 小中連携教育の推進

本校は、附属小倉中学校と隣接しており、塀や柵もなく、いつでも行き来できる状況にあります。このような条件を生かして、平成24年度に小中連携教育に試行的に取り組んで以降、この取り組みを充実させてきています。

(1) 中学生が小学校へ

○ 運動会

応援団の指導を中学生が小学生に行いました。めりはりのある応援合戦にするために、紅白に分かれて、中学生が応援合戦の構成や演舞について助言をしたり、指導をしたりしました。応援の技能を向上させることに加え、応援団としてのリーダーシップや応援に対する心構えを学ぶことができ、意欲へとつなげることができました。

体格の違いはあるものの、大きな動きやきれのある動きを小学生が習得することによって、迫力ある応援に変わりました。小学生が尊敬のまなざしで中学生を見つめていました。



○ 陸上記録会

400メートルリレーに出場する児童たちが陸上部の生徒から指導を受けました。また、ソフトボール投げの指導には、野球部の生徒がかかわりました。それぞれの種目の特質に応じた指導や助言を行ってくれることで、小学生の技能が向上していきました。また、中学生の動きを身近に見ることで、自分の目標とする姿を抱くことができました。

(2) 小学生が中学校へ

これまでに、附属中学校の体育大会の練習や合唱祭の本番を小学生が参観する機会をもっています。小学生が見ていることで、中学生もよいパフォーマンスを見せます。

(3) 小学生と中学生の合同開催

両校にとって共通する課題が公共交通機関を使用する際のマナーです。利用者の多いバスに特化して、毎年バスマナー集会を行っています。小学生と中学生が一堂に会し、中学生がリードしながら、バスを利用するときの留意点を全児童・生徒で共通理解を図る場としています。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

大先輩の先生方が勤めていた頃に比べると、「じっと待っていても参観者がたくさん集まる」という時期ではないと自覚しています。言ってみれば、昔は、職人氣質の先輩ばかりであり、職人の仕事部屋を参観者が興味津々で覗きに集まるという構図でした。しかし、今は違います。本校教員には、「職人の心をもった営業マンであれ。」と話しています。こちらから発信し、出かけ、売り込むべき時代です。幸い、本校がある北九州市の教育委員会の幹部に本校経験者が多く、公立校の授業や研究の改善に役立つよう連携した研修の取り組みが計画できる環境にあります。下欄の内容につながるところですが、本校は、今、まさに公立校から必要とされる時代になっており、その期待に応えるべく努力をすべき発信の時代であると考えています。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

附属学校の最大の強みは、教育実習に参加する学生と同様に、附属学校の教員自身が実践的な研究や研修を体験できることにあります。他の研修機関と異なるのはここであり、深い理論の習得の手応えを目の前の児童の姿を通して実感できます。さらに、理論とのずれを振り返り、修正することによって、さらに深い研究に入っていくことができます。

次期学習指導要領の構想のキーワードに、「アクティブ・ラーニング」がありますが、全国の附属学校では、昔から実践してきたことであり、今こそ、附属学校の教育実践が注目され、活用される時期であると思います。先に挙げた本校の「誘導の教育」もその一つであり、「自信をもって授業を公開し、参観者の参考にしてもらおう。」と本校教員に呼びかけています。お金を払ってでも見たい。そんな授業ができる自信を本校のみならず、全国の附属学校が持っていると思います。